



あいじつ


開校144周年

これって、私のアンコンシャス・バイアス？

校長 水野 睦子

5月4日（土）の朝日新聞で、都が「無意識の思い込み」（アンコンシャス・バイアス）の実態把握を目指した調査の結果が掲載されていました。小学生から高校生へと年齢を重ねるほど、進路や職業への「性別による思い込み」が強まる傾向が見られるとのことでした。

「アンコンシャス・バイアス（unconscious bias）」とは、無意識のうちにとらわれている思い込みや偏ったものの見方のことです。これらは知らないうちに言動に表れて、人を傷つけたり、組織のあり方に影響を及ぼしたりすることがあります。アンコンシャス・バイアスは環境や経験を通してつくられるもので、誰にでもあるものです。だからこそ、まずは気付こうとすること、そして気付くことが大切です。

例えば、男女平等教育の視点で見ると、「男の子なんだから泣かない」とか、「女の子なんだから、料理ぐらいできないと」など、性別で制限をしていることはないでしょうか。学校でも、「女子なのに算数・数学／理科ができて、すごいね」「男子、この本が入った箱を図書室に返してくれない」など、男女で分ける必然性がなければ、見直しをしていくことが大切です。子どもたちには5月27日（月）の全校朝会で話しました。是非、ご家庭でもアンコンシャス・バイアスについて話題にいただけたらと思います。

教職員が自分のアンコンシャス・バイアスに気付くことは、目の前の子どもたち一人一人をありのままに受け止めることになり、それが子どもたち一人一人の幸せにつながると考えます。子どもたちが性別に関わらず、自分の夢に向かって進んでいくことができるよう教職員一同「チーム愛日」として、今後も全力で取り組んでまいります。

子供も、大人も、主体的に学ぶ！

研究主任 本村 文香

知識も理解力もある、あとは主体性があれば「鬼に金棒」「虎に翼」になれる！と、学力テストの結果が出ている本校の子どもたち。そんな子どもたちが主体性を身に付けるには「知りたい、聞いてみたい」と思う友達との対話が一番なのではないか、では、どうしたら子どもたちが前のめりに話合うのだろうか、そして、子どもたちが話したいと思う場面を創り出すために私たち教師は何をすればよいのか、そんな考えから始めたのが本校の研究です。子どもたちが対話的に学ぶ場面を意図的に組み入れて日々の国語の授業を行い、互いの授業を見合って改善策を出し合い、大人が本気になって主体的に学ぶことが子どもたちの学びにもつながると信じて研鑽を積んでいます。今年度末、子どもたちが本気で対話し、自分たちだけで学び合える、そんな姿を夢見ながら・・・。

水泳系指導について

水泳担当 石山 真理

今年も水遊び・水泳運動の季節がやってきました。今年度の指導期間は、6月24日（月）～9月13日（金）となります。

水の中で、浮いたり泳いだりする運動を経験することのメリットはたくさんあります。①風邪を引きにくくなる。②脳が活性化。③呼吸器疾患の発作が起りにくい。など、身体に非常に良い影響を与えてくれます。各学年10時間程度の学習となりますが、たくさん水に触れ合い、充実した学習となるように指導をしていきます。

水着や水泳帽、タオルの準備をお願いいたします。また、定期健康診断の項目で再検査をしないとプールに入れないものもありますので、早めの受診をお願いいたします。

7月の学校便りより、「すぐる」での配信も行います。そして、2学期より「すぐる」のみの配信とします。その際には、「すぐる」と学校ホームページをご覧の上、ご確認ください。